



新型光硬化管更生工法の「アルファライナー工法」が、名古屋市内で初めて採用された。

現場は、名古屋市緑政土木局発注の「玉池4号

排水路始め25排水路改良工事」写真。施工は山越（名古屋市西区）が担当。工事概要は管更生工口径250〜700ミ、延長

アルファライナー工法

名古屋市内で初採用

午後5時の道路開放実現

530ミ。開削による自由勾配側溝設置延長88ミと排水路敷設延長14ミ。

工法の特徴として更生材料は、基材となる耐酸性ガラス繊維に紫外線に

より硬化する不飽和ポリエステル樹脂を含まし、筒状に形成したものを使用。施工方法は更生材を管内に引き込んだ後、空気を入れて膨らませ、更生材の中に紫外線照射ランプを通過させることで樹脂が固まり、強靱（きよつじん）なパイプを作

光硬化工法は紫外線照射後すぐに硬化するため、加熱・冷却工程が不要な熱硬化工法と比べて3割ほど施工時間が短い。また、従来品よりも材料強度が高く、材料の厚みを薄くすることができ、紫外線が更生材を透過するスピードが上がり、施工時間の短縮を実現した。

今回の現場の最大口径700ミ、最大延長55ミ、取り付け管削孔5カ所の

路線においても、午後5時には道路を開放した。光硬化工法協会中部支部の相澤宏暢支部長は、「アルファライナーの材料は業界最高強度を示す長期曲げ弾性係数950ON/mm²、材料の厚みは業界最薄を達成できた。時短工法として全国的に評価も高く、2016年度の施工高は、対前年度比30%アップとなった。今後も工法の普及拡大に努めていきたい」と話す。